

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホームいちえ		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_3_022_kan=true&JigrosyoCd=0170504047-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然が溢れる地域であり、入居者の方が外出や窓から入る風を感じる事で、季節の移り変わりを
感じながら、日々過ごされている。又、家庭的な雰囲気の中で入居者の方自ら、選択しながら、役割
や楽しみを持って生活していただける様に日々取り組んでいて、個別の活動を提案をする際には入
居者と話し合いながら活動内容を決め実践している。
・家族との連携を大切にし、日々の生活の様子、受診内容、外出の様子を手紙や電話で随時、報告
し日常の様子や体調の変化がすぐにわかるように連絡を取り合いながら情報の共有に努め、共に
支えあえるように配慮している。
・環境整備の一環として衛生チェック表を活用しながら、手摺、テーブル、床の消毒を徹底するして行
う事や調理時にはグローブの使用、調理器具、台所周りの消毒、食材使用や調理時のルールを全
職員が理解して守る事でインフルエンザやノロウィルス等の感染症対策を実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいちえ」は、札幌市郊外の静かな住宅街に立地し、近くの公園で散歩が楽しめるなど自然環境にも
恵まれている。2階建ての建物内は全体的に清潔感があり、落ち着いた雰囲気である。施設内の1階に行事などが楽
しめる多目的室があり、2階には家族も宿泊できるゲストルームがある。運営・ケア理念に沿って、年度毎に事業所目
標とユニット目標を作成し、毎年振り返りを行い作り直している。管理者と職員は一体になって、利用者が自分らしく生
活が出来るように、熱心に温かなケアを実践している。各職員は担当制を受け持ち、自主的に取り組める仕組みもあ
る。暮らしの便りを毎月送り、病状の変化にも素早く対応し、笑顔で迎えてくれる職員の対応に家族からも感謝の言葉
が寄せられている。法人内研修のほか、勉強会などで学ぶ機会も充実している。身体拘束禁止の研修会で事例検討
や言葉遣いを学び、日常のケアでは周囲が聞いて不快にならないように、丁寧な声かけで本人の意向を尊重して対
応している。担当職員はケアプラン評価表の作成などに参加し、それらを基に毎月更新計画を作成している。利用者
は外気に触れる機会が多く、希望に応じて入浴を楽しみ、日々ゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(Aユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを よく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪 ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつなが りが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えてい る (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみ られている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしてい る (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足し ていると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援によ り、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念はユニット内に掲示すると共にケア理念を基に年度毎に事業所、ユニット目標を作成している。半年毎に振り返りを行うことで、理念の共有や実践につなげていけるように取り組んでいる。	地域密着型サービスの内容を踏まえた運営理念と同じ内容のケア理念があり、職員間に浸透して理解が深められている。事業所目標とユニット目標は見直しを行い、毎年作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加盟しているおり近隣住民と顔を合わせた際には、必ず挨拶をする事や町内会の行事の誘いを受けた際には、入居者、職員がなるべく参加できるようにして日常的に交流を図っている。	町内会の清掃に利用者も参加し、運動会やお祭りを見学している。散歩中に住民や子供と挨拶を交わしているが、去年は事業所の行事が中止になり、子供との交流機会が少なくなっている。	次年度には、事業所主催の夕涼み会やボランティア訪問による人形劇などを再開したいとのことなので、住民や子供たちを招待し、継続的な交流に繋がるよう、期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居や介護に関する相談を随時受け付けており、子供110番へ加入している。感染予防や熱中症対策等日頃施設内で実践している対策をまとめた広報誌を発行する事で地域貢献を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度開催回数は少ないが一度運営推進会議で、入居者の方の様子や行事報告を行うと共に町内会や地域包括支援センター、消防と会議を通して災害対策や町内、グループホームの行事内容に関する情報交換を行っている。	今年度は事業所の事情から、運営推進会議が2回の開催になっている。消防署職員の参加を毎回得て災害対策の助言をいただいている。全家族に会議案内と議事録を送付しているが1名の参加になっている。	テーマを設定した年間計画を立て、2か月毎の会議開催に向けて期待したい。また会議案内にテーマの意見を頂くような工夫で、家族の意見が会議に反映されよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政上の手続きは管理職が役所に直接行き行っている。又、生活保護制度やオムツサービスに関して不明な点がある際は、随時質問を行い話しをする機会を作っている。	制度利用で分からない時は、電話や訪問をして各担当者に相談している。生活保護担当者とは、訪問時に利用者の状態を伝えたり、連絡を密にして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止11項目や例外3原則についていつでも確認出来る様にユニット内の事務所に掲示している。身体拘束に関する勉強会を今年度2回開催し、身体拘束を行うことでの弊害について学ぶ事や日常の場面を想定してのグループワークを行っている。又、日頃のケアの振り返りや話し合いを随時行いながら身体拘束をしないケアの実践をしている。	勉強会で身体拘束禁止の事例検討を行い、その中で「禁止の対象となる具体的な行為」の項目を問題形式で確認している。法人の合同研修で言葉遣いを学び、気になった時は職員間で注意している。外に出たい利用者の気持ちを察して、行動を共にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する定義や内容を全職員が理解出来る様に勉強会やミニ勉強会の機会に資料を基に話し合いを行いながら知識を深めている。又、定義を学ぶ際は、具体例を交える事で日頃のケアの中で虐待に繋がる可能性のあるグレーゾーンについて話し合いを重ね虐待の防止徹底に努めている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中で成年後見制度を利用している方がいる為、日常的に又、体調不良により入退院する際に密に連絡を取り合いながら支援を行っている。又、日常の生活の中で権利擁護に関してわからない事がある際は、随時調べ全職員に伝えていく事で職員全体の知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を行う際に本人や家族と話し合いを重ね不安や疑問点が無いか確認を行った上で契約を行っている。入居後に契約内容に疑問が聞かれる際には、すぐに対応を行うように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット入口に意見箱を設置すると共に面会時に家族の方に意見や要望を聞く機会を作る様心掛けしている。又、設ける事や本人とは日常の会話の中で不満や要望が無いか確認をし今年度具体的な意見や要望が聞かれていないが、意見や要望がある際には、職員全員で対応策を検討して改善に向けての取り組みをすぐに実践できるようにしている。	担当職員が暮らしの便りを毎月送るとともに、家族の来訪時に近況を報告して意見を聞き、申し送り時に情報を共有している。家族の意見は連絡ノートに記載しているが、今後は些細な思いも職員間で共有できるような記録の工夫を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とは話しを行いやすい関係作りを行い、職員より提案がある際には、管理職で話し合いをする事やカンファレンス時の業務改善の中で全職員で検討を行い、共通理解をしたうえで改善を図っている。	職員は利用者担当のほか、5分野の係りを受け持ち、ユニット会議に報告や提案をしている。また各担当は年度目標を立て、次年度の目標に繋がるよう自主的に取り組んでいる。年2回は管理者との個人面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度職員個々の努力や実績に応じて入居者の担当や係り配置やリーダーを決めてやりがいや向上心を持って業務に取り組める事や和からない事に関しては、随時管理職や他職員が相談を受け付ける事で働くうえでの不安を軽減できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修に経験年数に合わせて参加する機会を設けている。研修参加後には、研修報告を作成してもらい管理職は、研修で学んだ事を実践でどの様に活かしていくか把握する事で働きながらスキルアップ出来る様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職は、他グループホームと2ヶ月に一度研修を行う機会を設けている。資料作りや研修に参加する事でネットワーク作りを行うと共に法人内の研修に全職員が参加する機会があり、事業所以外の職員と情報交換を行いながらサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談の連絡が入った段階際には、本人や家族を含めた施設見学の提案をしている。直接本人や家族に会いに行き顔を合わせて本人の安心の確保を行うと共に困っている事や要望を聞きながら受け入れ態勢の確保を行い伝えていく事で安心して入居が出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みがあった際には、本人や家族と話し合いをする機会を設けている。その際に入居者を一緒に支えていけるように要望や困っている事を聞きながら対応策と一緒に考え信頼関係を築く事が出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人との面会や施設の見学を行う事で今後生活をしていく中で不安が無いか確認を行っている。又、経済的な負担を減らす事が出来る様に条件に適應する方に関しては市の介護サービスであるオムツサービスの提案等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係を築いていけるように日頃より家事活動や個別のレクリエーションを行っている。又、入浴時の何気ない会話から本人の思いを理解出来る様に努めると共に入居者個々の得意分野で力を発揮してもらえるような場面作りを行い気軽に参加してもらえるように声掛けを工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の近況や受診結果を逐一手紙や電話で伝えていくと事や受診の同行やプレゼント作りに協力してもらったり情報交換を密に取ることで本人に対する思いを互いに理解しあいながら共に支える事が出来る様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	学生時代の友人が面会に来れる事もあり、外出の希望がある際には、本人の歩行状態や日頃の生活の様子を伝えている。又、内服薬がある際は、併せて説明を行いなるべく不安を減らしていけるように取り組む事で関係の継続を図っている。	友人が来訪し、時には一緒に出かけて近くの公園で花見を楽しんでいる。お盆に家族と、お墓参りをしている。会話の中で馴染みの場所を聞き、昔住んでいた場所を車で通ってきたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の体操やレクリエーションを行う際に参加者全員が答えられるような質問を交えて利用者同士の会話が盛り上がるように支援する事や会話をする事が困難な入居者に関しては、本人の生活背景を基に職員が会話の橋渡し役を行う事で関わり合い支えられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度サービスが終了した入居者はいないが、サービスが終了後に希望があれば広報誌や季節の挨拶状を通して互いの近況を伝え合いながら関係の継続が出来る様にしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話、声掛けの中で本人の希望を把握出来る様に努める事や、入居者個々に自分の希望を伝えやすいような関係作りに努めている。又、会話が困難な方には、表情や目線を観察したり、家族からの情報を基に本人の思いや意向の把握に努めている。	家族の協力で、センター方式のアセスメント表に情報を記入し、別様式のアセスメントシートに情報を蓄積している。表情の変化や会話から思いを把握してケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居をする際には、本人の生活歴や生活習慣を出来る限り詳しく本人や家族から聞き取りをする共に、入居後に本人の日頃の生活の様子や関心を持っているものが新たにあった際は、些細な事でも家族に入居前の様子を確認しながら具体的に情報が得る事が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の進行により以前出来た動作への理解が困難になっている方には、ジェスチャーを交える事や一緒に行う事で理解が出来るか確認をしながら現状の把握に努めている。又、得られた情報は、職員全員で記録物や申し送りカンファレンスで情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度モニタリングを基にケアカンファレンスを行っている。カンファレンス時には、現状のケアが本人に適しているか、認知面やADLの状態に合わせたケアが行われているか見直しを行なっている。ケア内容の変更については、理由を含めて家族に説明と相談を行い、家族の要望を含めたケアの検討を行っている。	担当職員はケアプラン評価表でモニタリングを行い、カンファレンスで意向や課題を確認している。それらを基に計画作成担当者は毎月更新計画を作成し、家族の同意を得ている。生活記録に介護計画を意識して日々の記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に生活記録に記載する共に排泄や食事、水分量を月毎にファイリングした個人ファイルがいつでもすぐに確認出来る様に事務所に保管している。記録を記載する際には、本人の発語や表情、動作を記載行い、体調不良や排尿の異常等特別に変わったことがある際には、管理日誌や連絡ノートにも記載を行っている。勤務に入る際には、管理日誌と連絡ノート確認する事を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度実施されていないが、家族より外出の希望がある際には、家族のみでの対応に不安が聞かれる際には、職員が同行する等の柔軟対応が出来る様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館の利用や、馴染みの理容院を活用すると共に、市が行っているオムツサービスの情報や手続きの代行を行いながら介護保険以外のサービスを利用出来る様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新たに病院を受診する際には、家族に受診の理由を伝え、希望の受診先が無いが確認を行ってから互いに納得が得られた状況で受診先を決めている。	かかりつけ医の受診や他科受診には職員も同行し情報を共有している。毎週、協力医の往診もある。生活記録に受診内容を記載しているが、受診経過が分かるように、別記録の工夫も検討している。	

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の近況や受診内容を伝える健康管理記録を作成し訪問診療の前日に訪問看護師にFAXを行うと共に病院受診を行なう際には、受診先の相談や受診結果を報告し情報共有を行い適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、定期的に面会に行き本人の体調の把握や医師、担当看護師、医療ソーシャルワーカーとの情報交換や家族を交えての病状説明を受けている。又、早期に退院出来る様にグループホームで出来る事を伝えながら、早期退院をする事で入居者の負担を減らしていいけるように協力体制を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居をする際には、本人や家族に終末期や重篤化した際に事業所として出来る事と出来ない事を詳しく説明を行っている。又、医療行為が常時必要になりグループホームでの生活が困難になった際には、新しい入居先を地域の協力医療機関への紹介等を通して一緒に探す様に努めている。	利用開始時に事業所の対応を文書で説明し、重度化して医療行為が継続する場合は、対応が難しいことも説明し同意を得ている。主治医の判断の下で終末期の方針を関係者で話し合い、内容を記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防指導の基応急救護講習を自事業所と系列の事業所を含めて年4回開催して全職員最低2回は参加する事で反復して練習をする事で非常時に慌てずに対応が出来る様に取り組んでいる。又、急変事や事故発生時の対応マニュアルを用意し非常時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を消防指導の基行い災害時に入居者の命を守る為に必要な避難誘導の方法について実践を通して学ぶ機会を設けている。又、避難訓練を行なう際には、災害時の協力体制が築けるように近隣住民に案内状を手渡し訓練の参加をお願いしている。又、自主点検を毎日行い、防災の意識を高めている。	消防署立会いで、近隣にも働きかけて夜間を想定した避難訓練を5月と11月に実施したが、近隣住民の参加は得られていない。防災センターで地震などの訓練を受講し、その際に事業所内でも避難・安全確認を行っている。備蓄品類を準備しているが、更に防災担当者を中心に各災害を想定して検討中である。	運営推進会議で住民の役割を明確にし、次の夜間を想定した避難訓練時には、町内会役員や近隣住民の参加を得ての訓練を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミニ勉強会の際に接遇について学ぶ機会を作り、日頃の話し方や言葉遣いが相手に不快感を与えていないか振り返りを行なうと共にトイレや入浴等の援助が必要な時には回りの入居者に聞こえないように羞恥心に配慮した声掛けを行う事や自己決定しやすい質問をする様に配慮している。	新人には、利用者と信頼関係が出来るまで丁寧な言葉遣いをするように指導している。本人の意向を尊重できるような声かけをし、周りが聞いて不快にならないように職員間でも注意し合っている。記録時に離席する時は、書類を閉じるか事務室に戻すように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々に日課となっている活動の開催時間や内容について本人と話し合いながら決める事や具体的に希望を伝える事が困難な方には、表情や言動、目の動きを確認しながら、本人の希望を知る事ができるように対応している。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、時間の決まりは無く、入居者個々のペースを大切にしている。又、日課となっている活動を行う際には、バイタル測定や体調確認を行いながら無理なく行えるようにすると共に体調不良でなくても気分が乗らない際は、無理強いをせずに時間や内容の変更や翌日に行う事について本人と話し合いながら自己決定出来る様に働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望のヘアスタイルを把握しており、訪問理美容の際に希望に合わせたカットや毛染めを行ってもらえるように連携を図っている。又、日頃から本人の好む身だしなみを把握して外出をする際には、季節や気候を伝えながらおしゃれを楽しむ事が出来る様に支援している。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備をする前にメニューや調理方法を伝え、音や匂いで食欲がわき食べる事が楽しみになる様にしている。又、食事をする際に各テーブルに職員1名が同席し食材や調理方法を伝え会話を楽しみながら食事が出来る様に努めている。	献立は食材提供会社が作成しているが、給食会議で利用者の好みを伝えて反映させることができる。誕生日や自由食の日に利用者の好きな献立にしたり、利用者と一緒におやつ作りを楽しんでいる。畑の野菜が食卓に上る事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を基に入居者個々の水分量を把握しながら水分の提供を行っている。入居者個々にマグカップの大きさや重さを家族と検討しながら準備をし好みの飲み物や温度を把握する様に努め提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入居者個々に口腔ケアを行っている。入居者のADLにより自力で行うことが難しい部分は介助を行っているが、ジェスチャーや行動を説明する事で自力で行ってもらえるよう援助している。又、義歯の不具合や口腔内に傷が見られる際は随時訪問歯科を利用し相談を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の表情や仕草の他、排泄表を基に入居者個々の排泄パターンを把握する共に本人の耳元や回りの入居者から少し離れた場所で自尊心に配慮してトイレの声掛けを行いながらなるべくトイレで排泄が出来る様に努めている。	日中は可能な限り布パンツとパットを使用し、リハビリパンツやおむつは夜間のみ使用している。パットが汚染した場合も、さりげなく支援して羞恥心に配慮している。トイレで排泄を嫌がる時は、職員が交代したり、時間を変えて声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より牛乳やヨーグルトを促す共に階段昇降や体操等の身体を動かす機会を作ることなるべく自力での排便が出来る様に努めている。又、便秘がちな方は、訪問診療時に医師に下剤の使用方法や量の相談を行ない便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間についてはルールは無く、入居者や家族と話しながら今まで生活習慣を基に入浴日を決めている方がいる。又、入浴日や時間に希望がない方に関しては、入浴表を基に入浴の声掛けを行いながら本人の希望やタイミングを聞き行っている。	毎日午前から午後までの時間帯で、各利用者が週2回を基本に入浴している。希望に応じて同性介助などに配慮したり、週3回以上の入浴や汗をかけた時のシャワー浴などにも対応している。季節に応じて、柚子湯やしょうぶ湯なども取り入れて入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床、起床時間は決まっておらず、入居者個々の生活習慣に合わせて過ごされている。又、夜間帯の入眠状況や体調、倦怠感や眠気が見られる際は、本人と相談しながら休息の提案をしている。又、休息時は時間を見ながら離床の声掛けを行い、夜間眠れなくならないように本人と話しながら離床の提案を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外部受診、訪問診療で内服が変更になった際には、薬が変更になった目的や理由、副作用を医師や処方箋を基に確認を行い、観察のポイントや用法や容量を生活記録、管理日誌、連絡ノート、申し送りで全職員で情報が共有出来る様に努めると共に家族にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に日課となっている体操や書写、パズル、ごみ捨てを兼ねての散歩を午前に行っている。又、午後には、その日の活動内容を本人と話し合いながら散歩や卓球、階段昇降、読書と個別の活動を選択して楽しめる方や歌、読み聞かせ等を等の集団での活動を参加者全員で話し合いながら活動内容を決め行っている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出掛ける入居者がいる事や定期的に図書館に本を借りに行く入居者がいる。又、家族からの提案で外食に出掛ける際には、気軽に出かけることが出来る様に日頃の生活の様子を伝えると共に内服の準備を行う事や家族より希望がある際は、職員の同行している。	天候に応じて、車椅子を利用している利用者も一緒に、近隣を散歩したり公園に出かけている。畑仕事を手伝ったり、ウッドデッキでお茶を楽しみながら外気浴をする事もある。冬季も、散歩や受診などで殆どの利用者が月1回は外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入居者はお金の所持を行っていないが、日用品の残りが少なくなり購入の希望がある際には、一緒に購入に行き、使い慣れたものや値段を確認しながら商品を選ばれ、自分で支払いをする事が出来る様に支援している。又、購入を行う際には、必ず家族に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日や敬老の日にプレゼントが届いた際には、お礼を兼ねて電話をする事を提案し行っている。電話は、事務所内にあり、使用中はドアや窓を閉めプライバシーに配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらふフロア内を飾りを変えたり展示物の作成を入居者と一緒に行っている。貼る場所を話し合いながら行い、自分が住んでいる家である事を意識してもらっている。又、照明は暖色の物を使い夜間はダウンライトとトイレ前にスポットライトを使用する等の混乱を招かないように工夫をしている。	各ユニット毎に壁や床の色が違い、それぞれの階が認識できるようになっている。大きな窓から明るい光が入る居間や食堂の壁には、季節を感じるぬり絵や折り紙の雛人形が飾られている。行事などが楽しめる多目的室や家族などが宿泊できるゲストルームなど、施設が充実している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや座椅子があり入居者個々に好きな場所に座り、テレビや新聞を見たり入居者同士の会話を楽しみながら過ごされている。又、廊下の突き当りには1人掛けの椅子が用意されており人の気配を感じながら一人で過ごせるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居を行う際には、なるべく使い慣れたものを持ってきてもらい、生活環境が変わることでの負担を減らす事や居心地の良い環境作りが出来る様に家族や本人と相談している。居室内に、製作物の展示や家族の写真、好きな動物の写真を思い思いに飾られている。	ドアの配色を変えたり、長い手摺りをつけるなど、利用者が自分の部屋を認識して使いやすいような造りになっている。造りつけのクローゼット以外は、カーテンや照明器具など各利用者が使いやすい物や好みの物を持ちこんでいる。写真や手作りの作品を飾り、その人らしい居場所づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内はバリアフリーになっており、歩きやすい環境になっており、各入居者の居室前やトイレ前には表札があり、お風呂にはのれんをつける事で分かりやすい環境づくりに配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホームいちえ		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_3_022_kan=true&JigrosyoCd=0170504047-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の静かな場所にあり、近くには大きな公園もあり、気軽に散歩に行く事が出来る。施設の裏側は雑木林となっているが、自然が豊かで、各居室からも眺める事が出来、四季を感じられる。近くにはスーパーやコンビニなどがあり、買い物に機会があり、訪問美容や床屋、町内会の行事など社会資源を活用している。食事は毎食職員が手作りし提供している。入居者が出来る事を見極め、料理や食器拭き、掃除、洗濯物畳みなど、家事へ参加していただいている。日々の関わりを大切に、思いや、希望を把握し、ケア理念を基に、入居者が自分らしく生活が出来る様、心掛けしている。職員の経験に応じた、法人内での研修や、勉強会係が中心となって行う勉強会、カンファレンス時に各職員が担当となって行う、ミニ勉強会がある。また、総合施設長が講師となって行う、他の事業所との合同研修を、学ぶ場が多くあり、職員に知識、技術の向上を図り、事業所全体のスキル向上に繋げている。ケアについては、ケアプランは毎月更新し、毎月のカンファレンスに、意見交換し、ケアの見直し、ケアの統一をしている。毎月、各職員が直筆で手紙を書き、家族に送り、年4回季刊誌とし広報誌を作成し、手紙に同封し、日々の様子をお伝えしている。各職員は、入居者の担当、係りの役割りがあり、事業所全体で、入居者がより良い生活を送れる様、努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(Bユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のケア理念は事務所の入口に掲示され、職員が見やすいようになっている。職員が入職時には、ケア理念を渡し説明している。また、ケア理念を確認しながら、年度初めに事業所目標、ユニット目標を職員全員で考え、半年毎に振り返りを行っている。合同研修で、地域密着 型サービスの意義を深められるよう、説明を受け確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の一員として、回覧板のやりとりを行い、外出時には、近隣住民の方と挨拶を交わしている。事業所で行う年二回の避難訓練には、近隣住民に参加を呼びかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談や見学の希望があった時には、満床でも受け入れ、入居に至らなくても、抱えている悩みを聞いたり、専門的知識から、高齢者や認知症の方の特性や対応など理解を広げられる機会を作っている。緊急時の避難場所として子供110番に加入している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は現在1度しか、開催出来ていない。開催時には、家族、町内会、地域包括支援センター、消防に参加を呼びかけている。入居者の生活の様子を報告したり、避難訓練の参加の呼びかけ、町内会行事の確認をしている。家族には案内をしているが、出席はされていないが、案内や議事録を郵送している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の担当者が来所された時や、入居者の認定調査の機会に、入居者の生活の状況などお伝えしている。運営推進会議には、地域包括支援センターの職員へ参加を呼び掛け、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、勉強会も開催している。事務所には、身体拘束禁止の書面を貼り、いつでも確認出来る様にし、入居者とのコミュニケーションを日々、大切にし、その方の気持ちや、今置かれている状況を把握している。申し送りやカンファレンスなどで情報を共有し、ケアの見直し、振り返りを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出希望があった時には、すぐに止めるのではなく、可能な限り、職員が付き添い出れるようにしている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてのマニュアルがあり、勉強会を開催し、知識を高めている。事務所には、高齢者虐待の定義を貼り、職員が確認出来るようにし、気付かない内に、不適切ケアを行っていないかなど、カンファレンスで日々の自己のケアを振り返り、職員同士、指摘し合える、話しあえる関係を築けるよう努めている。管理職から職員にストレス解消法など確認したり、業務内容が偏り、疲労が溜まらない様、業務改善として、毎月のカンファレンスで話し合っている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している入居者には管理者が対応し、より良い支援が出来る為に、他機関と連携を取っている。機会がある毎に職員へ説明し、情報の共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学来られた際に、パンフレットと一緒に利用料の説明を行なっている。契約前には、特に利用料金、医療との連携体制、重度化の対応、退去時などの説明を丁寧に行っている。本人、家族に不安や疑問を尋ね、少しでも解消出来る様、努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、家族に生活歴を基本情報シートを記入していただき、入居者の生活歴を把握に努めている。日々の関わりの中から、意見や要望を聞けるようにし、意思疎通が難しい方や、自分の思いを表現出来ない入居者には、表情や仕草、行動で気持ちを汲み取れるように努めている。家族に毎月のお手紙で状況報告し、来所時には、近況報告し、ケアプランの説明を行い、意見を尋ね、出された要望などは、申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有し、ケアに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度始めに各職員は自己目標を立てている。日々の業務や毎月のカンファレンスで、問いかけたりし、職員の意見を大切にしている。また、意見が出やすいように、カンファレンス前に、話したい内容を、書面で提出してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や経験年数に応じ、研修への参加、各入居者、各係りの担当を持っている。各係りでは、知識や勤務状況に応じリーダーの役割を行い、向上心が持てるようにしている。休憩時間が取れるよう、業務内容を検討し、気分転換が図れるよう、休憩する時の環境も整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、マニュアルの他、一日毎の行動予定表がある。丁寧な指導が出来るよう、担当職員を設け、交換ノートを活用し、業務の振り返り、不安や悩みを抱え込まないように努めている。職員の年数に応じた、新人、中堅研修、または、法人内での研修、カンファレンス時に各職員が担当となつて行う、ミニ勉強会や、法人内の事業所との合同研修で、学ぶ場がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市や区の管理者会議に参加している。事業所の勉強会には、他の事業所の職員が参加され、他の事業所の勉強会に参加したりと、交流の機会を設けている。また、他の事業所と合同で行なう、勉強会が年に三回あり、情報交換を行なっている。管理職は定期的に他法人の管理職と研修会を行い、交流や情報交換を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、自宅、入院先、入所施設の訪問し、本人に会い困っている事や心配事などお聞きし、顔馴染みの関係作りをしている。お聞きした情報を基に、アセスメント、初期プランを作成し、職員へ伝達し情報の共有をしている。要望などがあった時には、曖昧な事は言わずに、事業所で出来る事、出来ない事をお伝えし、可能な限りケアに反映できる様に、初期プランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族に会い、施設概要、ケア内容、料金説明、重要事項説明、退去時の説明を十分に行い、理解を得られる様にしている。家族が求めている事、置かれている状況、背景を理解し、事業所として、どのような対応が出来るかを事前に話し合いを行い、時には家族の協力を得ながら、可能な限りケアに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時には事業所のパンフレットの他、法人内のパンフレット、料金表を渡し、本人、家族と話し合い思いや要望を把握し、現在の状況にあったサービスを提供出来るよう、様々な選択肢を出し、柔軟な対応が出来る様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩という事を職員で共有し、日々のコミュニケーションを大切に、入居者の思いや、要望、不安に思っている事など、把握する様努めている。入居者が出来そうな事、得意とする事を把握し、入居者の行い方を尊重しながら、時には手順や方法をお聞きしながら、一方的な関わりにならないようにしている。一緒に活動を行ったり、食事をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、手書きのお手紙を各職員が書き、暮らしの様子をお伝えし、来所時には近況報告を行っている。面会時には要望や意見をお聞きし、本人とゆっくり過ごせる環境作りをしている。日頃から、家族にケア内容を相談し、家族と共に入居者を支えていける関係作りに努めている。受診結果や、体調、状態の変化があった時には、家族に電話連絡しお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の使用に大きな取り決めはなく、自由に行えるようにしている。以前、通っていた、馴染みのある床屋に定期的に行かれたり、入居前のかかりつけ医への受診、入居前の施設への外出など、馴染みの場所や関係が途切れないよう支援している。お盆時期には、毎年家族とお墓参りに行かれる入居者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中で入居者同士の関係を把握し、食堂や居間での席を配慮し、気の合う入居者で会話を楽しんでいる。一緒に体操や歌を唄う活動を行っている。意思表示が出来ない方や、思うように言葉が出ない入居者には職員が介入し、会話できるようにしている。居室で過ごす事が多い方には、訪室し会話や活動する機会を作っている。他の方が行っている家事を見て、手伝ってくれる入居者もいる。クリスマス会など、他のユニットと合同で交流する機会を持ち、楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、これまでの暮らしが継続出来る様、これまでの生活状況、支援内容など情報提供している。退去後に家族が来所され、事業所の現状をお伝えしたり、現状の状況や、今困っていることがないかなど、話をする機会を作り、継続的な関わりが出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを大切にし、入居者の思いや希望の把握し、思いを表現出来ない方には、家族から話を聞いたり、些細な表情や言葉から、思いの把握に努めている。職員は申し送りや、カンファレンス等で情報の共有をし、入居者の希望が困難な時には少しでも意向に近づけられるよう努め、家族の協力を得ながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族にこれまでの生活を基本情報シートに記入してもらい、入居前の施設や病院からも情報をもらっている。家族から話をきいたり、入居者との、日々関わりの中で、今までの生活や性格を把握し、毎月カンファレンス時に行なうミニ勉強会の内容で、今までの生活を確認する事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり、今までの生活の状況を把握し、生活リズムを把握している。行動や表情、話した事など、日々の生活の様子を記録し、心身の状況の変化を気付けるようし、申し送りや、カンファレンスで情報の共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や思いを取り入れ、アセスメントを行い、介護計画書を作成している。毎月、各担当職員がモニタリングし、管理者、計画作成担当者は確認をしている。カンファレンス時に、ケア内容を振り返り、介護計画書の見直しを行い、話し合った内容を基に、計画作成担当者が介護計画書を作成している。家族には来所持に説明を行い、意見や要望を反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、介護計画書を基に、日々の様子や会話や行動、表情などを生活記録に記載、バイタル、水分量、排泄、体重などは、個人の温度表に記載している。管理日誌や連絡ノートは勤務前に各自で確認し、日々の申し送りで情報の共有をしている。それらを基に、アセスメントし、介護計画書を作成し、ケアを行いモニタリングし、介護計画書の、見直しに活かしている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊に大きな取り決めはなく、本人、家族の要望に臨機応変に対応している。希望に応じて、予定がなくても、法人内の事業所、他のユニットの協力を得ながら、散歩や買い物など、その時々生まれるニーズに対し、柔軟に対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにスーパーや以前通っていた床屋へ外出したり、近隣の公園に散歩に行く事もある。社会資源の把握に努め、訪問美容、市のオムツサービスなど活用している。消防の方とは、避難訓練も含め、定期的に情報の交換を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは別に、入居前に受診していた病院へ、通院している入居者もいる。受診時は、職員も同行し、状況報告や状態を手紙で伝え、関係を築いている。状態の変化などあった時に、電話で相談や指示をもらっている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と、健康管理記録の活用し、週に一度の訪問診療時に、入居者の状態、状況をお伝えし、助言、指示を受けている。他の医療機関に受診した際には、受診結果や処方内容をファックスし、入居者の状態を把握できるよう、連携を図っている。協力医療機関で、入居時と、一年に一回の健康診断を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には今までの生活や状態を記入した添書を渡し、情報提供し、入居者、家族が少しでも不安が軽減できるように努めている。入院後は可能な限り面会に行き、医師や看護師に本人の状況をお聞きし、医師からの病状説明がある時には、家族に承諾を得て、職員も同席している。事業所で出来る事、治療が必要な時には通院が可能な事をお伝えし、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期について十分説明し、理解を得られるよう努めている。状態に変化があった時には、電話やお手紙でお伝えしている。状態が悪くなった時には、早い段階から、本人、家族と話し合い、事業所で出来る事をお伝えし、今後の方針を一緒に考えている。協力医療機関やかかりつけ医にも状況を伝え、緊急時の対応を明確にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し年に一度、事業所で、初期対応や応急処置、応急救護の訓練を実施している。また、法人内の事業所で行なう際にも、職員に案内をし、全ての職員が年に一度は参加できるようにしている。各ユニットには、入居者の緊急連絡先、緊急時対応マニュアル、連絡網がある。お盆時期や年末年始など、長期の休みになる際は、休診日一覧表を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力の基、近隣住民に参加を呼び掛け、年に二回、日中、夜間想定での避難訓練、消化訓練を行なっている。事業所にはスプリンクラー、緊急通報装置、消火器が設置している。各ユニットには、緊急連絡網、各入居者の誘導方法を記載した、避難誘導表、消火器や消化用水、非常口がすぐわかる様に、事業所の図面ががある。緊急時に備えた、非常食、水などが蓄えている。冬季期間には、事業所の裏に避難経路を作っている。毎日、職員は避難経路、ボイラー、各コンセント周辺の確認など、自主点検を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット目標にもかかっている、入居者は人生の先輩という事を常に考え、日々の関わりは、尊厳やプライバシーを損ねないように、丁寧に時には親しみやすく、選択肢を出しながら、自己決定しやすい関わりが持てる様、努めている。トイレ誘導時には、さりげなく声をかけたり、居室に入る際は、ノックしている。個人の生活記録を入居者の側で書く事もあり、その時には入居者へ配慮したり、その場から離れる時には、ふせたりしている。守秘義務について十分理解し、カンファレンス時に、各職員へ再度説明している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりで、職員側で決めた事を押し付けるのではなく、複数の選択肢を出したり、提案し、思いや希望の把握に、自己決定が出来る様、働きかけている。誕生日には食べたいものを確認し提供したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活状況を把握し、体調や状態に支障がない限り、起床、就寝時間、食事、休息の時間など、可能な限り希望に沿えるようにしている。本人の意向を確認し、介護計画書に反映しさせる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着る服は、入居者の意向を確認し、基本的には入居者が決め、同じ服装が続かないように、配慮している。外出時や、お正月には普段着る機会が少ない服を着て、おしゃれを楽しめるようにしている。定期的に床屋に行ったり、訪問美容を利用し、起床時には、髪を解かし、髭を剃ったり、整容をしている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは管理栄養士が作成し、食後、配膳や食器拭き、テーブル拭きなど、行なってくれる方もいる。自由食を取り入れ、旬な食材を取り入れたり、入居者と相談しメニューを決める事もある。誕生日には、外食に出掛けたり、本人の希望のメニューを取り入れることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は生活記録に、水分量は温度表に記載し把握している。食事はその方の状態や、病状に応じて、形状や味付けを変えたり、医師の指示の基、塩分や糖分を多めに提供する方もいる。水分表を用いて、各入居者の一日の水分量を把握し、少ない時には、ゼリーやアイスなど、その方にあった嗜好の合わせ提供している。提供時は、同じ飲み物が続かないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声を掛けたり、介助で口腔ケアを行なっている。就寝時には、義歯を預かり消毒を行なっている。口腔ケアに強い拒否をされる方もおり、その時には歯科医師に相談し、食間中に水分を摂取していただき口腔内の衛生を保てるようにしている。口腔内に異常があった時には、協力機関の訪問歯科へ連絡し、直に診てもらい、一年に一回、歯科検診を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いながら、入居者の仕草や行動などサインを見逃さず、その方の排泄パターンを把握している。トイレ誘導時にはさりげなく声を掛け、失禁が減った入居者もいる。尿意、便意が低下してもトイレに座ってもらう事で、トイレで排泄出来る様になっている。失禁が増えても、すぐにオムツを使用せず、自尊心を傷つけないよう、声をかけ替えていただき、清潔を保っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には牛乳を飲んでいただき、乳酸飲料やヨーグルトの提供をしている。日々、適度な運動を行なってもらい、便秘気味の方には、食事の際、食物繊維を多く含む食品を多めに提供したり、本人の嗜好に合わせ、水分を多めに摂取してもらい、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を用いながら、入浴の間隔が空かないよう配慮し、一週間に2回から3回は入れるようにしている。可能な限り、入居者の希望やタイミングで入れる様努め、拒否がある方には、時間を置き声を掛けたり、同姓の職員は声かけを行なったりしている。介助が必要な方には、二人介助で浴槽に入ってもらっている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操や家事など、活動する機会を多くし、夕方にはゆっくりと落ち着いた雰囲気作りを心掛けています。日中、休息や居眠りする方には、無理に起こす事なく、夜間の睡眠の妨げにならない程度に、休んで頂いている。夜、起きてしまう方には、ゆっくり話をしたり、温かいものを飲んで頂いたりし、少しでも安心して眠れるよう支援している。共有スペースは電気を消し、スポットライトやダウンライトを活用し、冬季間には居室にタオルを干し、湿度を保ち、室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は届き次第、内服説明書を確認し、職員が毎回違う入居者の内服袋に、内服日の日付けを付け、薬の目的や副作用の理解を深め、状態の変化に気付ける様努めている。内服の変更や、受診時に内服が処方された時には、連絡ノート、生活記録、管理日誌に記載し、申し送りで伝達し、情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりから出来そうな事、得意な事を把握し、家事などを頼み行なってもらい、感謝の言葉を伝えている。音楽を聴く事や、裁縫、塗り絵など趣味は継続できるよう支援している。競馬を好まれる入居者が、一緒レースを予想する事で、張り合いや喜びある日々を過ごせるようにしている。		

グループホーム いちえ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい時や希望がある時には、近くの公園に散歩へ出かけたり、一緒にスーパーへの買い物、以前通っていた床屋に外出している。今年度は職員人数の関係で外出する機会が少なかったが、少しでも季節を感じられるように、事業所内に、飾り付けを行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族、事業所で管理している。お金を持っていないと不安な入居者には、家族の協力を経て、本人管理の元、お金を持って頂いている。買い物や受診時などで、支払いする際に、一緒に行く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用に大きな取り決めはなく、自由に使用出来る様にしている。電話を掛けるのが困難な方には、お手伝いしている。入居者、家族の希望で、携帯を持ち、定期的に家族に電話している方もいる。家族が来所された時に、本人のノートに家族の様子を書いて下さる事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、衛生管理表を用いて消毒、共有スペースの掃除を行ない、室温は暖房の調整や扇風機の使用、換気、湿度は加湿器、各居室にタオルを干し環境整備を行なっている。居間には入居者と作った季節に応じた飾り付けを一緒に行い、季節感を感じてもらえるようにしている。日差しが強い時にはレースのカーテンを閉め、日差しが入らない時は、電気を付け、ダウンライトやスポットで明かりの調整をしている。調理の音、テレビの音、職員の足音にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関わりを把握し、居間や食堂の席に配慮している。思い思いの場所で過ごせるように、居間から離れた廊下の突き当りには一人掛けのソファがあり、一人で静かに過ごす事が出来る環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族には可能な限り今まで使い慣れた物、好きな物を持っていただくよう伝えている。居室には、写真や以前、趣味で行っていた、絵を飾られている方もいる。観葉植物を置き、毎日水やりを行なったり、今までの生活同様、床に布団を敷き休まれている方もいる。日々、モップ掛けや、週に一度、各居室のシーツ交換を行ない、ベッド上で多く過ごしている方は、週に二度行なう事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関にはスロープがあり、室内に段差はなく、廊下やトイレ、浴室などには手摺りが付いている。手摺りや電気スイッチは、使用しやすいように低めに設置している。トイレにはプレート他に、スポットライトを活用し、見てわかりやすいようにお風呂にはのれんを掛けている。廊下にはダウンライトがあり、誘導灯にもなっている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム いちえ

作成日：平成 26年 3月 7日

市町村受理日：平成 26年 3月 12日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	今年度は、事業所主催の行事やボランティアの方が来ることがなかった。	地域や子供との交流の機会を作る。	地域を招く事業所主催の行事やボランティアを招いた行事を開催すると共に、地域に発信し交流の機会を作る。	1年
2	4	運営推進会議の開催が少ない。また、家族に案内を行っているが参加人数が少ない状況である。	定期的な運営推進会議の開催と家族の参加が得られる。	運営推進会議開催月の年間テーマを計画する。また、会議のテーマを案内に載せることで、会議に関心をもていただける様に取り組む。	1年
3	35	年2回の避難訓練実施の際には、地域に案内を発信しているが、地域の参加が得られていない状況である。	災害時に近隣住民の協力が得られるように、今後も避難訓練や事業所内行事に案内を手渡し協力を依頼する。	運営推進会議や避難訓練の案内時に、具体的な協力内容を伝え、気軽に参加してもらえるようにする。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。